

平成 16 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 東和メックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 堀江義光
(コード番号 6775 東証第 2 部)
問合せ先 経理部長 佐藤武雄
(TEL . 03 - 5684 - 2321)

固定資産減損会計の早期適用及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 16 年 10 月 15 日開催の取締役会において、下記の通り「固定資産の減損に係る会計基準」を平成 17 年 3 月期中間決算より早期適用することを決定いたしました。これに伴い、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 16 年 5 月 14 日の決算発表時に公表した平成 17 年 3 月期（平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 「固定資産の減損に係る会計基準」の早期適用について

当社は、財務諸表の透明性を高め、財務体質の一層の健全化を図るため、「固定資産の減損に係る会計基準」を早期適用することといたしました。

当社及び子会社が所有している賃貸用不動産について減損処理を行い、連結で 4 億 33 百万円、単独で 2 億 49 百万円の特別損失を計上する予定であります。

2. 業績予想の修正

(1) 平成 17 年 3 月期中間連結業績予想数値の修正（平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 9 月 30 日）
(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,900	230	170	170
今 回 修 正 予 想 (B)	3,300	10	30	600
増 減 額 (B - A)	600	220	200	770
増 減 率 (%)	15.4%	95.7%	%	%
(ご参考) 前期実績(平成 15 年 9 月期)	3,799	153	22	23

(2) 平成 17 年 3 月期中間単独業績予想数値の修正 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 9 月 30 日)
(単位: 百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,700	230	170	170
今 回 修 正 予 想 (B)	3,200	50	10	380
増 減 額 (B - A)	500	180	160	550
増 減 率 (%)	13.5%	78.3%	94.1%	%
(ご参考) 前期実績 (平成 15 年 9 月期)	3,629	187	50	50

(3) 平成 17 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)
(単位: 百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	8,000	550	420	410
今 回 修 正 予 想 (B)	7,000	200	70	500
増 減 額 (B - A)	1,000	350	350	910
増 減 率 (%)	12.5%	63.6%	83.3%	%
(ご参考) 前期実績 (平成 16 年 3 月期)	7,203	234	32	79

(参考) 1 株当たり予想当期純利益 (通期) 8 円 72 銭

(4) 平成 17 年 3 月期通期単独業績予想数値の修正 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)
(単位: 百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	7,600	530	400	400
今 回 修 正 予 想 (B)	6,800	200	80	320
増 減 額 (B - A)	800	330	320	720
増 減 率 (%)	10.5%	62.3%	80.0%	%
(ご参考) 前期実績 (平成 16 年 3 月期)	6,885	290	41	1

(参考) 1 株当たり予想当期純利益 (通期) 5 円 58 銭

(5) 修正の理由

当中間期の売上高につきましては、海外向けは米国向けが採算面重視による受注量の減少、欧州向けが現地でのソリューションの開発遅れによりそれぞれ当初予想を下回りました。また、国内向け ECR については、本年 4 月に施行されました消費税総額表示方式の影響で前期末から期初にかけて順調に推移いたしましたが、夏場以降その反動落ちが予想以上に厳しかったこと、広告機器についても単価下落と価格競争の激化により予想を大きく下回りました。例年 7 月以降はキャンペーンにより国内売上は伸長しますが、今年は以上の理由から売上が低迷いたしました。4 月に立ち上げた EMS 事業を中心とした新プロジェクトについても開発、品質検査等がスケジュールより遅れ下期にずれ込み、結果、海外、国内とも当初計画を下回る見込みです。

利益面では、営業利益及び経常利益とも売上減による粗利益の減少、また、当期純利益につきましては前述の「固定資産の減損に係る会計基準」の早期適用による減損損失及び上期業績に基づき流動及び固定資産に計上した繰延税金資産を全額取り崩し、下期以降の収益計画を見直し、それに伴い繰延税金資産を改めて計上したことにより、連結・単独ともに大幅な下方修正を行うことになりました。

下期につきましては海外、国内向けとも新製品を中心に販売量は回復するものの、期初に想定した以上の単価下落と価格競争の激化は継続するものと思われる期初予定の売上・利益確保が難しい見通しとなりました。

従いまして、誠に遺憾ながら当中間期及び通期における業績予想を修正することといたします。

当社では、現在、メーカーとしては当然のことながら、改めて品質・納期・コストを重視し、他社協業推進の体制強化等による業容拡大を目指した経営改革を推進中であり、早期に収益構造改善の結果が出せるよう努める所存であります。

- * 上記記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。
- * 本資料の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって本資料の予想数値と異なる可能性があります。

以 上